

水道水検出農薬

下限値を大きく下回る

市水道部「安心して水道水利用を」  
見解発表

宮古島地下水研究会が6月28日、市内で採取した地下水、水道水、市民の尿から微量ながらもネオニコチノイド系とフェニルピラゾール系の農薬成分を検出したと発表したことに対し、市水道部は30日、「市が目標準としている定量下限値を大きく下回り、直ちに人体に悪影響を及ぼすものではない」との見解を文書で発表。安心して水道水を利用するよう呼び掛けるとともに、市民の不安払拭(ふっしょく)のため農薬成分の追加検査を行い結果を公表する考えを示した。

不安払拭へ追加検査実施

同会は、化学農薬濃度測定を専門の分析機関に依頼した結果、農薬成分を検出し、その量は多いところで1リットルあたり180ナノグラムに達したと発表。採水地点などの農薬濃度調査などの実施と結果の公表を市に求めている。

同会の発表内容を本紙などが記事掲載したことを受け、市水道部は30日に水道水質についての見解を文書で発表した。

その中で同部は「記事について、市民の多くの方々から水道水に対する心配や不安を抱かれたと思う」として「水質の管理として、水道法に基づき水質基準への適合を確認するため、毎年度策定し公表している水質検査計画により、水質基準(51項目)の全項目について、今年度追加検査を実施した」と説明している。

拭と水道水の安全性の確認のため、今後の取り組みとして水道水源地下水流域お

よび水道水について、今年度内に同研究会が測定した農薬成分について追加検査を行い、その結果を速やかに公表することとした」と検査と結果公表を行うことを説明。市民に対し「本市の水道水質は水道法で定める水質基準は十分にクリアしているため、これまで同様安心して水道水を利用してください」と呼び掛けている。

削除

「たまたま」と呼び掛けている。

29日付9面「水道水から微量の農薬」の記事中にある「PAV関連ウイルス感染に加え、飼育水中の農薬の影響により車エビ個体の免疫能低下がウイルス増殖を増長させ、共食いによる爆発的感染拡大を引き起こしたことが考えられる」との宮古島地下水研究会のコメントは、同会が見解として述べたものであり新聞社として事実確認した内容ではないため削除することも、関係者におわびします。

その上で「しかしながら、市民の心配や不安の払

拭と水道水の安全性の確認のため、今後の取り組みとして水道水源地下水流域お